



北波平を守る獅子

ユガフ 世果報を招くシーシ

沖縄各地で継承されている獅子舞。北波平では、獅子のことを「シーシ」「獅子舞のことを「シーシケシ」と呼び、旧盆ウーケーと旧暦八月十五夜の日にその力強い姿を現します。

糸満市史によると、北波平の獅子の起源はおよそ300年以上前といわれています。シーシが舞うことで悪霊をはらい、ユガフ世果報良い世、幸せを招くと信じられ、五穀豊穡と村の繁栄をもたらすものとして、現代まで継承されてきました。

北波平自治会の元会長である長嶺衛さんは「7年ほど前までは旧暦八月十五夜の日にシーシケシを行っていたが、時代に合わせて、現在は十五夜直後の土曜日に行っている」と伝統を守るための変化を語ります。

北波平のシーシケシは、ユスミ(四方)に向かって威嚇と奮迅(ふんじん)の形相をむき出しにして舞い、その後、舞台の中央で舞う「五方獅子舞」といわれる昔ながらの原形を残していることが特徴。さらにシーシケシに奏でる三線の音曲も、独

特の節回しであるといわれています。



▲過去に行われた獅子再建三十三周年の写真。力強く舞う姿は、現代にも受け継がれています。

ユガフ 継承への思いと 地域の誇り

説は保栄茂でも伝えられているようです。

「激しく舞うから、中に入るのは若くないと厳しい。でも、今は人がいないから頑張れる人がやってくれている」と長嶺さんはシーシケシの激しさを伝えながら、後継者不足を嘆きます。

現在、シーシに入る1番の若手は20歳の大城聖人さん。「小さい頃から見ていて、大きくなったらやりたいと思っていました。コロナ禍の時に、シーシに入る人は家族しかできないということで、高校1年生の時に初めて父と一緒に

入りました」と初めてシーシに入った当時を振り返ります。

これまで大切に継承されてきたシーシケシですが、近年は青年会を中心に行事の運営を担っていたものの、地域の人口減少に伴い、現在は7人程度で伝統を守っています。「本当は他の地域からでも人を集め、シーシケシを守っていきたいですが、披露する場は旧盆と十五夜の年2回だけ。その上、シーシは地域の守り神で、イベントなどで披露することもできないので、魅力を広く発信することも難しいです」とシーシ継承の難しさ話す大城さん。しかし、その目には地域の誇りを守っていく覚悟を見せます。

「練習は暑い上に重たくて大

変ですが、これまで長い期間、地域で守ってきた伝統を大切にしたいです」。

力強く舞い、地域の人々を厄災から守り続けると同時に、地域に誇りを吹き込んだきたシーシ。この伝統は若者の思いとともに、今後も永く受け継がれていくことでしょう。



▲現在のメンバー。大城聖人さんは上の左から2番目。最年長は50代と、幅広い年代で地域の伝統を守ります。

ユガフ 獅子にまつわる 2つの説

北波平の獅子の由来には2つの説が残されています。1つ目は、昔の北波平は豊かな村であり、上納物も他の地域と比較して多く納めたため、その褒美としてクージ(公事、琉球王府)から与えられたという説。2つ目は、北波平の龜と隣村の保栄茂(現豊見城市)の獅子を交換した説。龜とは、火葬が行われていなかった時代に、遺体を納めた棺箱を墓まで運ぶ輿(こし)のこと、この交換

